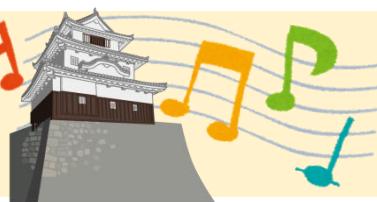


# みんなの劇場通信！

Vol.

3



## 市民ワークショップ かから版

# 誰が為に劇場はある？

丸亀市では、「（仮称）みんなの劇場」の整備に向けて、どのような事業を行うのか、どのような機能や規模の施設にするのかを検討しています。そこで、市民の皆様から様々な意見をいただくために、市民ワークショップを開催しています。

第3回ワークショップは9月27日（金）、丸亀市役所であ

り、市民ら18人が「劇場はみんなのために何ができるのか？基本構想の謎にせまる」をテーマに「みんなの劇場」の「みんな」とは誰か、その誰かのために必要な「もの・こと」について意見を交わしました。

### 「つながり」が鍵か？

第3回ワークショップでは、まず、「みんなとは誰か？」をより具体的にイメージしながら意見を出し合いました。

参加者は3グループに分かれて、それぞれの経験や立場から、劇場を必要とする人の姿を思い浮かべ、真剣に議論しました。グループ毎の発表では、「いじめにあっている子ども」や「ひきこもり」、「外国人」、「一人暮らしの高齢者」など、日本が抱えている社会課題を表すような意見が多く挙げられました。「社会的に孤立している人」などの意見もあり、全体的に、人とのつながりが必要としている人が多く挙げられました。

また、「仕事や勉強に疲れた人」や「家事と仕事の両立でくたくたのお母さん」など、いやし・いこいの場を必要としている人に関する意見も挙げられました。

### みんなの劇場はみんなの家

劇場に必要な「もの・こと」については、「劇場はみんなの家で、そこに様々な人が寄ってきて、家族がお互いを見守っているようなイメージ。」との意見があり、劇場という枠にとらわれない広い視点で考える事が必要だという議論もありました。また、「話し相手が常にいる場」や「仲間が増える機会」など、人と出会い、繋がれる場が必要との意見も挙げられました。



輪になって発表を聴く参加者たち

### 次回予告！

第4回テーマ  
「劇場はみんなのために何ができるのか～基本構想の謎にせまる～Part2」

日程：10月28日（月）  
18:30-20:45

会場：丸亀市生涯学習センター  
4階講座室1

編集後記 Nの視点

アイデアは裏面へ



今回のワークショップでは、「みんな」を具体的にイメージしていきました。ファシリテーターの声が聞こえなくなるほど白熱した議論となり、必要な「もの・こと」については、時間が足りなくなるほどでした。

今回は、「みんな」が抱える課題を見る化していきつつ、「みんな」・「課題」・「もの・こと」を繋ぎ合わせていきたいと思います。

# 各チームのアイデア紹介！

## みんなって誰？

### Aチーム

#### 子ども

- ・親が共働きの子ども
- ・父子家庭の子ども
- ・いじめにあっている子
- ・悩み多き思春期の中学生
- ・進路に迷う中高生
- ・忙しい受験生
- ・やりたいことが見つからない若者

#### 親（母子・父子）

- ・子育て中のお母さん
- ・家事と仕事の両立でくたくたのお母さん

#### 高齢者

- ・一人暮らしの高齢者
- ・体力のない老人
- ・交通手段がない高齢者

#### その他

- ・社会生活に消極的な人
- ・普段一人でいる人
- ・外国人の親子
- ・離婚したてのおじさん
- ・定年退職したての男性
- ・生きがいを無くした方
- ・持病を持っている方
- ・文化芸術にあまり関心のない方
- ・仕事につかれたサラリーマン



## 必要なもの・こと

- ・保育スペース
- ・話しを聞ける場所
- ・子どもと親が同じ時間遊べる
- ・育児からの解放
- ・子どもも同じくらい楽しめる環境
- ・顔を合わせずに話ができる部屋
- ・他の人からも見える公開練習室
- ・話し相手が常にいる場
- ・特技を発見できる、出せる場所
- ・知り合いができる
- ・いやされる、ゆっくりできる
- ・やりがいが見つかる
- ・違う世界がある（学校だけじゃない）
- ・他人に迷惑をかけずにそれぞれで楽しめる
- ・食事のスペース

### Bチーム

#### 子ども

- ・居場所を求める子ども
- ・学校に行かない子、行けない子

#### 親（母子・父子）

- ・子育て中の若い主婦

#### その他

- ・主婦、主夫の方
- ・特に何もない暇な人
- ・ライブに行ったことがない人
- ・家に居たくない人
- ・ニート
- ・友達が欲しい人
- ・人と出会いたい人
- ・一人ぼっちの方
- ・施設で過ごす方



- ・市民ボランティア
- ・託児のスペース
- ・病児保育
- ・多目的に使える
- ・飲食のできる場所
- ・少し空間があるような、公園があるような
- ・普段触れられないものに触れられる場所
- ・「誰でも」行けるイベント
- ・静かにしなくてよいコンサート
- ・チケット価格変動制のコンサート
- ・送迎などがある
- ・介護相談ができる
- ・役所の機能を併せ持つ
- ・芸術文化に関係のない「暮らし」の一部
- ・安全、安心な場
- ・「劇場」という場にとらわれない
- ・ゲームを持ち寄って遊んでもよい
- ・みんなの「家」
- ・子どもが自由に遊べるが、見守りがある

### Cチーム

#### 子ども

- ・一人っ子の子ども
- ・友達がいない子
- ・不登校児

#### 高齢者

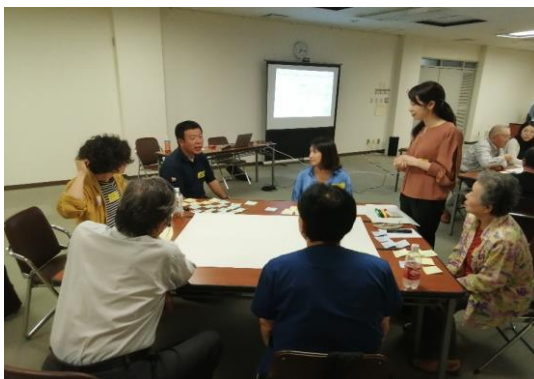
- ・一人暮らしのお年寄り

#### 親（母子・父子）

- ・子育て中のパパ、ママ
- ・赤ちゃん連れのお母さん

#### その他

- ・ホームレスの方
- ・外国人の方
- ・社会的に孤立している人
- ・車いすの人
- ・LGBTの方
- ・経済的にゆとりがない人
- ・障害のある人
- ・病気で入院している人
- ・終活している人
- ・人と交流したい
- ・行く場所がない人
- ・介護で大変な人
- ・文化芸術と接点がない人
- ・趣味のない人
- ・就活の学生
- ・仕事に忙殺されている人
- ・舞台上に立てる人
- ・舞台の下でいたい人



- ・本やボードゲームがたくさんある
- ・見て、聞いて、居るだけで楽しい
- ・文化芸術があふれる。心豊かに
- ・いこいの場、いやしの場
- ・お互いの価値観が受け入れられる
- ・お互いを思いあう体験
- ・仲間が増える機会
- ・一人でいれる部屋
- ・悩みを聞いてもらって楽になれる
- ・出会いの場
- ・自分の居場所、役割があり、必要とされる
- ・個室ブース
- ・多様性を感じられる
- ・どんな自分でもふさわしい役がある劇
- ・ネット環境（Free Wifi）
- ・フードコート
- ・温泉、足湯、フットバス
- ・体を動かすこと（ダンス等）
- ・道具（楽器等）に自由に触れる
- ・オープンスペースで自由に演奏できる
- ・始めたばかりの人の発表の場
- ・ヘブンアーティスト制度の導入
- ・地元アーティストの発表の場
- ・市民自体が舞台に上がる機会を作る
- ・父親学校
- ・出入口を別に